

## 土地利用の推進(企業誘致・大場地区区画整理)

アナ: 『市長が語る2024三島』第25回の今日は、「土地利用の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長: よろしく申し上げます。

アナ: 現在、三島市では企業誘致に向けた土地利用に力を入れているようですが、それにはどのような狙いがあるのでしょうか。

市長: 全国的な傾向ですが、三島市でも人口減少と少子高齢化が進んでおります。こうした中、若い人を呼びこみ、活気あるまちづくりをしていくためには、魅力ある働く場を確保していくことが必要不可欠となっております。

現在、企業は、日々刻々と変化する国際情勢上のリスクに対応するため、生産拠点を国内に戻す傾向がありますことから、今後も、アクセスの良い静岡県東部への進出意欲は高い状態が続くものと見込んでおります。

そこで、産業の拠点とするべく土地の有効利用を図り、雇用の創出や地域経済の活性化につなげたいと考えております。

アナ: 働く場が増えれば労働人口が増加し、活気のあるまちづくりにも繋がりますから、三島市が発展していくために、企業を誘致することはとても重要ですね。

市長: はい。

現在、三ツ谷工業団地において、感染症の迅速診断キットを開発・製造する「タウンズ」さんと、ボトル入り高級茶飲料を開発・製造する「ロイヤルブルーティージャパン」さんの工場の建設が進んでおりますほか、東駿河湾環状道路沿線での産業拠点の整備にも力を入れております。

アナ: なるほど。ちなみに、東駿河湾環状道路沿線での取り組みについて具体的に教えていただけますでしょうか。

市長: 三島市は、静岡県が進めるファルマバレープロジェクトの「ふじのくに先端医療総合特区」の対象区域となっており、医療・健康関連産業の集積を推進しております。

そのような中、この度、東駿河湾環状道路の玉沢インターチェンジ周辺の用地に、整形外科や脳外科のインプラントなどを開発・製造する「東海部品工業」さんの進出が決定いたしました。

隣接地には、「ふじのくに感染症管理センター」が併設されている「静岡県健康福祉交流プラザ」のほか、「三島総合病院」もございますので、ファルマバレープロジェクトの一大拠点として、相乗効果を生み出せればと期待しているところでございます。

アナ： このエリアと親和性の高い企業の進出が決まったとのことで、今後の展開が大変楽しみです。他の地区でも、大きなプロジェクトがあると伺いましたが。

市長： はい。

現在、県立三島南高校南側の、東駿河湾環状道路大場・函南インターチェンジや伊豆箱根鉄道大場駅にほど近いエリアにおいて、新たなまちづくりの検討が始まっています。

昨年4月には、地元地権者による「三島市大場地区土地区画整理準備組合」が設立されましたが、三島市といたしましても、支援体制を強化し、事業の早期実現を後押ししているところでございます。

また、現在は、事業化推進パートナーとして、戸田建設さんにも参画していただき、令和8年度末の市街化編入を目指した調整を進めております。

今後は、地権者の合意形成はもちろんのこと、どのような企業を誘致するかなど開発の具体的な方向性を検討していきます。加えて、このエリアは市街化調整区域で、農地が大部分を占めておりますので、法的規制のクリアなど、関係機関と協議を重ね、新たな産業拠点の創出を図っていきたいと考えています。

アナ： 夢のある一大プロジェクトですね。この規模の用地はなかなかないのではないかと思います。

市長： はい。三島市では、企業からの引き合いがあっても、お応えできる産業用地に限られているのが悩みの種でございますが、今後も可能性調査の実施などを通じて産業用地の創出に尽力し、三島の持続的発展につなげてまいります。

アナ： 三島市が元気なまちであり続けるには、働く場をつくる企業誘致が重要で、そのための土地利用に尽力されていることがよく分かりました。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。